

平成 27 年度 第 1 回 柔道整復学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 27 年 9 月 16 日（水）18：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 102 教室
- 出席者：11 名
 - 長)
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）
 - 佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）
 - 小泉 利幸（三進興産 営業部部長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 木下 美聡（学科長・議長）
 - 湯浅 有希子（学科教員）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- 柔道整復学科 教育カリキュラムについて
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
- 早期体験実習 アーリーエクスポージャーについて
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の 3 つのこだわり）について

2. 検討事項

- 育成人材要件とカリキュラムの連動について
-

1. 報告事項

- 柔道整復学科 教育カリキュラムについて
 - 「伝統柔整」「現代柔整」との説明を行う。
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
 - 昨年度の委員会で多く議題に上がった“マナー”“道徳”“態度”等を教える時間を、正規授業内に実施したことを報告。
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて
 - 本校の専任教員が開業する接骨院に体験学習に行く。学生に配布しているポートフォリオを使用し報告。
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の 3 つのこだわり）

について

→学園の方針に沿って本校が行っている取り組みを紹介

2. 検討事項

<育成人材要件とカリキュラムの連動について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 明確ですばらしい。是非進めてほしい。
- 各学年での到達目標を明確にした方が、評価が行いやすくなるのではないか。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- 現在進めている方向性で進めて行く。
- 平成28年度カリキュラムの中で実施できるものから実施をしていく。
- 次回の会議の際に、進行状況を報告する予定。

<その他>

報告事項も含め、下記のような意見が出された。

① 教育カリキュラムについて

- 「現代柔整」の中で「カイロプラクティック」「タイマッサージ」を在学中に教えるのは何故か。開業という視点では分かるが。
- カイロプラクティックを教える際には、危険性を必ず教えてほしい。

(回答) 卒業してから必要性を感じ習得する卒業生もいる。実際に施術する際に事故が起こらないよう“基礎中の基礎”を教えている。

- 「現代柔整」の表記で「カイロ」「タイマッサージ」と位置づけるのには疑問がある。この表記では現在行われている柔整では全員が「カイロ」「タイマッサージ」をやっているように思われる。むしろ、「現代柔整」とは超音波診断、様々な検査機器、物療機器を使用して行われている現在のやり方であって、「カイロ」「タイマッサージ」は補完療法に分類されるのでは。

- 「伝統柔整」という言い方にも疑問を感じる。

(回答) 今後検討していく

- 技術も大切だが“道徳”をしっかり教えてほしい。道徳心がかけていることが多い。現場としては、道徳をしっかり教えてほしい。

(回答) 学校としても道徳の必要性は重々理解している。今年度から正規授業の中にも“態度教育”を取り入れる。また、アーリーエクスポージャーの事前教育など、様々な場面で道徳の大切さを伝えている。

② 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて

体験実習受入先のせんせいより

- 学生には良い刺激になっているようだ
- 患者さんとも話をしている。

- 学生から積極的に質問は出ないが、会話をして行く中で色々と質問が出てくる。
- 忘れ物が多い。
- 途中、集中力が欠けている。

(文責／松丸)

平成 27 年度 第 1 回 鍼灸学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 27 年 9 月 17 日（木）14：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 305 教室
- 出席者：12 名
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会）
 - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）
 - 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
 - 前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 三村 聡（学科教員・議長）
 - 渡邊 靖弘（学科教員）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

3. 報告事項

- 鍼灸学科 教育カリキュラムについて
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の 3 つのこだわり）について

4. 検討事項

- 育成人材要件とカリキュラムの連動について
-

3. 報告事項

- 鍼灸学科 教育カリキュラムについて
 - 「日本鍼灸」「中国鍼灸」を基本とし「美容鍼灸」「スポーツ鍼灸」「レディース鍼灸」「高齢者鍼灸」を行うことを、実際のカリキュラム表を使い報告。
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
 - 昨年度の委員会の中で、コミュニケーションについて多く話し合われた。それらのことから入学時のオリエンテーションの際に“コンセンサスゲーム”を実施。グループ分かれ行い、早い段階でのクラス作りができるように持って行く。
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて
 - 5 院に受入をご協力頂き実施。学生に配布しているポートフォリオを使い説明。

- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の3つのこだわり）について
→学園の方針に沿って本校が行っている取り組みを紹介

4. 検討事項

<育成人材要件とカリキュラムの連動について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 評価される学生にとって一番ギャップを感じることは、客観的な達成率（学校の評価）と自分の達成率との差である。自分（学生）の自己評価も出させ、ギャップを理解させてほしい。
- 自己認知と他己認知とのギャップを埋めさせてほしい。
- 初めて来る患者様は、施術者に技術があるかどうかは分からなくても、スムーズにコミュニケーションが取れているかいないかは分かる。いかに患者様の懐に入って行けるかが大切。“聞き出す”コミュニケーションも養わせてほしい。
- 「態度」を卒業認定事項に入れることを、本当にできるかが疑問。
(回答) 実際に「態度」項目が未修得で卒業認定がされない、ということにはならないと思う。ただ、そのような項目が卒業認定事項の中にあり、何らかの評価を学生に伝えれば、「態度」の大切さ・職場での必要性を学生に伝えられるのではないかと考えている。
学科としても実技などの科目の中で組み入れて行きたい。
- 各科目の中で“真摯さ”など「態度」の事項を、どう学生に伝え教えるのが疑問。
- “接遇”などを専門の立場（例え：JALアカデミーなど）から講師を向かえ講義をしてもいいのではないだろうか。
- 「態度」の項目ができないのは高卒新卒とは限らない。返って社会人経験がある方が難しい場合が多い。教育形態の中で“素直さ”を学ばせてほしい。
- 現場としては、まず“人として”の教育が大切

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 現在進めている方向性で進めて行く。■ 平成28年度カリキュラムの中で実施できるものから実施をしていく。■ 次回の会議の際に、進行状況を報告する予定。 |
|--|

(文責/松丸)

平成 27 年度 第 2 回 柔道整復学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 28 年 2 月 17 日（水）18：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 102 教室
- 出席者：11 名
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）
 - 佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）
 - 小泉 利幸（三進興産 営業部部長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 木下 美聡（学科長・議長）
 - 大隅 祐輝（学科教員）
 - 小杉 泰輔（事務部長）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

5. 報告事項

- 第 1 回委員会検討事項の中で、来年度カリキュラムに反映させるものについて
 - ① 「カイロプラクティック」「タイマッサージ」の位置付けについて
 - ② 道徳教育について（資料①）
- 育成人材要件とカリキュラムの連動について（進行状況報告）
（資料②・資料③・資料④・資料⑤）

6. 検討事項

- 中期計画（教育的側面）について（資料⑥）
-

5. 報告事項

- 第 1 回委員会検討事項の中で、来年度カリキュラムに反映させるものについて
 - ① 「カイロプラクティック」「タイマッサージ」の位置付けについて
→正規カリキュラムから外し、応用分野に位置づけ実施をする。
 - ② 道徳教育について（資料①）
→毎回会議で出ている“道徳”を、次回のオリエンテーションに織り込んで実施する旨を報告。「2016 年度 新入生オリエンテーションプログラム案（資料①）」を説明する。

(委員からは下記の意見が出された)

- ◆ 集中力に欠けている学生を、どう持っていくかが大変だと思う。
- ◆ プログラムの中の「on off」の考え方は大切だと思うが、夜間部の学生に対して行う際は、方法論を考えた方がいいのではないかと。学生が必要を感じないと、夜間部の学生は伝わらないと思う。
- ◆ 授業中に個人的な行動（立ち歩く・トイレに行く）をする学生は、その行為を悪いこととは認識していない。そこを理解し改善するためにも、このオリエンテーションの取り組みは良いと思う。
- ◆ このプログラムに関しては、教職員全員が理解しなくてはならない。
- ◆ 学校の方針・やり方を明確にし、指導していかなくてはならない。まず、指導する側（学校）が問題意識を持ち、やり方を考えていかなくてはならない。
- ◆ 「はじめが肝心」だと思うので、入学時から行った方がいい。
- ◆ グループに分かれた時のコミュニケーションを、上手く取れるようなプログラムにしてほしい。
- ◆ グループ内でメンバー同士、良かった点・悪かった点を伝え合ったりしてもいいのでは。
- ◆ 何をやっても“個性”で済ませてしまう時代。こういったことを学校で伝えていくことはいいことだと思う。

● 育成人材要件とカリキュラムの連動について（進行状況報告）

(資料②・資料③・資料④・資料⑤)

→12月末より実施している学内ワークを紹介。その際に、教職員から出された意見を紹介。

(委員からは下記の意見が出された)

- ◆ 整理整頓は大切
- ◆ 教室に温度計・湿度計を置いた方がいいのでは。これらを置くことにより、室内環境に対する意識が変わる。この意識は、接骨院に努めるにあたっては大切なこと。
- ◆ ちょっとしたことが将来（接骨院開業の際に必要）に繋がっていく。
- ◆ 教職員から出された意見を、どう学校の方針とすり合わせて行くかが、難しく大切なこと。
- ◆ 設定した事項の到達度（前期・年間）を見て、検証していく必要がある。
- ◆ 日本医専の方向性を、明確にしてほしい。

6. 検討事項

● 中期計画（教育的側面）について

上記の議題について、下記のような意見が出された。

(附属施術所についての意見)

- ◆ 現在の利用者は内部関係者が多い。通りから入っているため、目立たないのではない

か。

- ◆ どうすれば附属施術所が流行るか、学生に考えさせてもいいのではないか。
- ◆ 卒後研修を充実させるためにも、本来の柔整業務が行えるよう、学校側も考えた方がいいのでは。
- ◆ 本来の接骨院業務の理解が少ないのでは。
- ◆ 1つの入り口で、接骨院、鍼灸院はおかしいのではないか。
- ◆ 地域の方にも利用される附属施術所を目指してほしい
- ◆ 現在の治療は、保険診療が中心。高田馬場は住宅街ではないので、怪我をしている人も少ない。その点も、流行らない理由だろう。
- ◆ 接骨院と鍼灸院に分かれたら、保険診療と自由診療のスペースを分けて行いたい。
- ◆ 業界の代表としては…財団の開催している医療研修を行ってほしい。
- ◆ 附属施術所は地域住民のためのもの。もっと急患を受け入れる体制を取ってほしい。
- ◆ “痛みを取る”は、患者には必要。保険診療だけではなく、差額徴収もすべきでは。
- ◆ 上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。
- ◆

(その他の意見)

- ◆ “魅力ある教育” “魅力ある教員”とは、具体的には何か。教員に関しては“経験”が重要になってくると思う。
- ◆ eラーニングの進行状況は報告

☆ 次回：平成28年9月予定

(文責／松丸)

平成 27 年度 第 2 回 鍼灸学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 28 年 2 月 17 日（木）14：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 001 教室
- 出席者：12 名
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会）
 - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）
 - 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
 - 前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 三村 聡（学科教員・議長）
 - 渡邊 靖弘（学科教員）
 - 小杉 泰輔（事務部長）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

7. 報告事項

- 第 1 回委員会検討事項の中で、来年度カリキュラムに反映させるものについて
 - ③ 道德教育について（資料①）
- 育成人材要件とカリキュラムの連動について（進行状況報告）

8. 検討事項

- 中期計画（教育的側面）について（資料⑥）
-

7. 報告事項

- 第 1 回委員会検討事項の中で、来年度カリキュラムに反映させるものについて
 - ④ 道德教育について（資料①）
 - 毎回会議で出ている“道德”を、次回のオリエンテーションに織り込んで実施する旨を報告。「2016 年度 新入生オリエンテーションプログラム案（資料①）」を説明する。
- 育成人材要件とカリキュラムの連動について（進行状況報告）
 - 12 月末より実施している学内ワークを紹介。その際に、教職員から出された意見を紹介。

2. 検討事項

- 中期計画（教育的側面）について（資料⑥）

(委員からは下記の意見が出された)

- 他の学校との違いが分からない。“日本医専として”“学校として”を説明してほしい。
- “〇〇な学校”と記載されているが、本来は、〇〇が決まった上でのアクションプランではないか
- どういう学生を育てるか、入ってくる段階で次のように分類できる。
高校生新卒（なんとなく・鍼灸に救われた）
脱サラ（鍼灸に救われた・手に職を付けたい）
- 鍼灸を広めるためにも、世の中に鍼灸を知ってもらう必要がある。鍼灸を説明する際には、次のような言い方をしている。

症状を治す→西洋医学	原因を治す→東洋医学
人が治す→西洋医学	自分で治す→東洋医学

- もっと広い視点で鍼灸業界を見てほしい
- 鍼灸という職業で稼げるようにしていかななくてはならない。そうしなければ、新旧と言う業界がなくなってしまう。
- 教職員から出た意見（資料③）を、実現していくような学校にしてほしい。それが〇〇な学校になっていくと思う。
- 5年度の業界がどうなっているかを真剣に考えて、学校教育も行ってほしい。
- 鍼灸業界を守り発展させていくためにも、財団に入ってほしい。財団の会員数が増えれば、発言力も高まる。
- 学校教育に“経営”を入れるべきだ。経営もひとつの技術、そこも大切に扱ってほしい。
- “経営”は3年間のカリキュラムに入れるのは難しいのでは。そのためにも卒業研修を充実させ、その中で行ってほしい。
- 鍼灸のすばらしさを学生に伝えてほしい。症状を治すだけでなく、それに派生し、その患者の人生まで変える力があることを知ってほしい。
- “国試対策”と“マナー態度”とは相入れないのでは
(回答) 完全に分けることはできないと思っている。マナー態度が出来てくれば“主体性”も出てきて、最終的には国試合格率も上がる。

次回：平成 28 年 9 月 15 日（木）予定

(文責/松丸)